

ISSN 1342-7202
CODEN MSBTFL

Memoirs of
THE FACULTY OF
BIOLOGY-ORIENTED SCIENCE
AND TECHNOLOGY OF

KINKI UNIVERSITY

近畿大学 生物理工学部 紀要 ● September 2011 No. **28**

MEMOIRS OF THE FACULTY OF BIOLOGY - ORIENTED SCIENCE AND TECHNOLOGY OF KINKI UNIVERSITY No.28

THE FACULTY OF
BIOLOGY-ORIENTED SCIENCE
AND TECHNOLOGY

KINKI UNIVERSITY

近畿大学生物理工学部

〒649-6493 和歌山県紀の川市西三谷 930

Tel. 0736-77-3888 Fax. 0736-77-4758

URL <http://www.waka.kindai.ac.jp>

E-mail : wlib@waka.kindai.ac.jp



近畿大学生物理工学部 紀要 第 28 号 September 2011

 **近畿大学**
KINKI UNIVERSITY

分野を超えた研究・教育が新たな学問フィールドを創造。 21世紀を担うテクノロジーは、ここから生まれる。

時代に即し、新たなスタートを切る。

生物の持つメカニズムに学びながら、その優れた能力を先端技術に応用してきた近畿大学生物理工学部。これまでには生物工学科・遺伝子工学科・電子システム情報工学科・知能システム工学科・生体機械工学科の5学科で構成されていましたが、さらに社会のニーズに応えていくために、時代に即した6学科へと生まれ変わりました。



工学・農学・理学・医学の 融合から生まれる新たな学問分野。

学問の領域を超えた多種多様な研究テーマが、生物理工学部の魅力です。従来は異なる学部で研究されていた工学・農学・理学・医学の分野を融合させながら、オリジナルの研究フィールドを創造。一つの学部内でそれぞれの研究成果を持ち寄りながら発展し合うことにより、新たなテーマの発見にもつなげます。

バイオテクノロジー・医療工学・ 福祉工学・生活科学で構成。

生物理工学部は、バイオテクノロジー・医療工学・福祉工学・生活科学からなる6学科で構成されています。各学科で共通しているのは、生物の機能を解明し、そこから得た知見を社会に役立つテクノロジーに応用すること。「人間」「医療」「食」「生活」「環境」「福祉」をキーワードに、次世代の工学技術を探求しています。

豊かな社会を実現する、未来志向の6学科。

■生物工学科

植物や微生物を中心に、分子・細胞レベルから個体・集団レベルに至るまで、その機能を広く学習。それらの機能を改良し、食糧生産や環境保全といった問題を解決していくための技術を習得します。

■遺伝子工学科

遺伝情報の解読、生殖工学技術や遺伝子組換え動物創造、ES細胞操作などの手法を学習。食糧の安定供給、再生医療や不妊治療、医薬品開発など、社会の広い領域にわたっての問題解決をめざします。

■食品安全工学科 [新設]

食中毒の予防など「食の安全」に関する技術の開発、クローン技術や遺伝子組換え技術の「食」利用に関する安全性評価、「食」が持つ機能性の発見とそれを利用した健康増進などについて学びます。

■システム生命科学科 [新設]

DNA、RNAなどの生命情報や脳・神経系などの生体システムを対象に、コンピュータを駆使して「生命」の機能や仕組みを解明。新たな知識を応用して、豊かな暮らしに役立つ技術の開発をめざします。



■人間工学科 [新設]

人の身体的形状や動作、心理特性を配慮した生活に直結する“人に優しいモノづくり”を追究。今後の福祉社会をリードする研究者・開発者をめざし、ユニバーサルデザインの心と技術を学びます。

■医用工学科 [新設]

多彩な講義や医療現場での実践的な実習を通して、高度医療機器を取り扱う国家資格「臨床工学技士」の受験資格を得るとともに、より高性能な医療機器を設計・開発する技術者をめざします。

大学院 生物理工学研究科

世界最高水準の研究レベルを誇る「生物理工学研究科」では、生物理工学部の研究成果を、さらに一歩進めた教育研究と技術開発を展開。その独創的な研究・開発は生物工学の枠だけにとどまらず、多様な工学的分野へと応用することにより、これまでにない研究開発課題を実社会へ提供しています。

生物理工学研究科	生物工学専攻 博士前期課程・博士後期課程	分子生物学や細胞生物学の最新知識と生命科学の新技术を、有用物質の生産や動植物の作出に活用することで、社会への貢献をめざします。
	電子システム情報工学専攻 博士前期課程・博士後期課程	情報処理のための先端デバイスや、音響・画像をはじめとする通信・解析技術の開発など、電子情報分野の教育・研究に取り組んでいます。
	機械制御工学専攻 修士課程	機械工学の専門教育を通じて、生物・生体機能の解明と、その応用研究（バイオメティックス）を進め、新たな高度機械技術の開発に挑みます。

Memoirs of the Faculty of Biology-Oriented Science and Technology of Kinki University

近畿大学生物理工学部紀要

第 28 号

平成23年 9月30日 発行

編 集 近畿大学生物理工学部紀要編集委員会

発 行 〒649-6493 和歌山県紀の川市西三谷930
近 畿 大 学 生 物 理 工 学 部

印 刷 所 〒577-8502 大阪府東大阪市小若江3-4-1
近畿大学管理部 用度課（出版印刷）

Memoirs of
THE FACULTY OF
BIOLOGY-ORIENTED SCIENCE
AND TECHNOLOGY OF
KINKI UNIVERSITY

近畿大学 生物理工学部 紀要 ● September 2011 No. **28**

Dean : Prof. Yoshihiko Hosoi

Editorial Board :

Chairman Prof. Shigeki Hontsu

Prof. Tsuneo Kato

Prof. Fumiko Yano

Prof. Kazuya Matsumoto

Prof. Toshihide Kuriyama

Prof. Tadashi Shibue

Prof. Toshiro Matsumoto

Managing Editor : Akihiko Fujiwara

The Faculty of Biology-Oriented Science and Technology, Kinki University
930 Nishimitani, Kinokawa, Wakayama, Japan 649-6493

CONTENTS

Original Papers

ダイオキシン受容体型転写因子 AhR の転写活性化コア領域 岡南政宏, 藤谷純也, 阿野貴司	1
青色 LED による補光が‘紀州在来薬用紫蘇’の生育および機能性成分含有量に及ぼす作用 堀端 章, 松川哲也, 矢田 清	13
動物生産学(畜産学)分野におけるプロテオーム解析の展開 武本淳史, 池上春香, 加藤里恵, 松本和也	21
梅酢ポリフェノール抽出物の安全性の検討 志賀勇介, 土田辰典, 原 雄大, 岸田邦博, 前田正信, 宮下和久, 藤原真紀, 山西妃早子, 矢野史子, 三谷隆彦	31
視覚属性に対する注意の影響と網膜像の皮質における写像を考慮した視覚探索モデル 矢野勝也, 小濱 剛	41
RoboCup2D サッカーシミュレーションにおける遺伝的アルゴリズムの適用 河本敬子, 西田吉伯, 一野天利	53
5 分間の最大自転車サイクリング運動時の筋の酸素環境・代謝環境の変化 谷本道哉, 佐賀典生, 村出真一朗, 形本静夫	61
東日本大震災における「新しい政治」 —「脱原発をめぐる政治」と「サステイナブル・ポリティクス」— 新田和宏	73
<i>Tanticharoenia Sakaeratensis</i> の高濃度グルコース耐性・代謝に関するプロテオーム解析 波多野裕美, 武部 聡, 東 慶直	95
Transport of 2-cell embryos produced by intracytoplasmic sperm injection (ICSI) at cold temperatures (4°C) Manami Nishimura, Kiyoko Fukumoto, Yuko Nakamuta, Yoshihiko Hosoi, Toru Takeo, Naomi Nakagata and Masayuki Anzai	109

近畿大学生物理工学部紀要投稿規程

(総則)

第1条 近畿大学生物理工学部（以下「本学部」）は、生物理工学部および生物理工学研究科の教育研究活動に携わる者の研究成果（以下「論文」）を公開する学術誌として、近畿大学生物理工学部紀要（以下「紀要」）を発行するものとする。

(投稿資格者)

第2条 生物理工学部（以下「本学部」という）紀要の投稿有資格者（論文の筆頭著者）は、次に掲げる者とする。

- (1) 本学部の専任教員、職員
- (2) 本学部の大学院博士課程及び修士課程の学生
- (3) 本学部の研究員
- (4) 本学部の専任教員の推薦を受けた同学部の非常勤教員
- (5) 編集委員会で投稿が認められた者

(投稿内容)

第3条 投稿内容はいずれもオリジナルであることを条件に次のとおりとする。

- (1) 研究論文
- (2) 研究ノート
- (3) レビュー
- (4) 論説
- (5) 調査報告

(著者等)

第4条 原論文が共著の場合、他に本学部以外の者を含んでもよい。

(刊行)

第5条 紀要の刊行は、原則として年2回とする。

(投稿申込)

第6条 投稿しようとする者は、期日までに編集委員会に申し込むものとする。

2. 前項の申し込み者は、原稿締切日までに原稿を編集委員に提出する。

(論文の受理)

第7条 編集委員会は、投稿された論文について査読を依頼し採否を決定する。また、論文原稿の提出日を受理日とする。

(原稿の作成)

第8条 原稿の作成上の留意事項は、次のとおりとする。

- (1) 原稿のスタイルは「紀要執筆要領」に従う。
- (2) 提出論文は、和文でも英文でもよい。いずれにも表題、著者名および和文には英文抄録を、英文には和文抄録をつけるものとする。
- (3) 掲載論文は、原則として刷り上り16ページ以内とする。
- (4) 原稿は印刷したものを2部提出し、査読の結果採択されたものについては、正原稿を電子媒体の形式で作成し、印刷原稿1部を添付して提出する。

(校正)

第9条 校正は速やかに行うこととし、内容および図などの変更、追加は原則として認めない。

2. 印刷業者との連絡を必要とする場合は、編集委員会を通じて行うものとする。

(別刷り)

第10条 別刷りは、論文ごとに50部を無料配布とし、増刷分の費用は著者負担とする。

2. 希望増刷部数は、編集委員会に申し込むものとする。

(著作権)

第11条 投稿された論文の著作権は、近畿大学に帰属するものとする。

(規程の改廃)

第12条 この規程の改廃は編集委員会において行うものとする。

(附則)

この規程は、平成11年9月21日より施行する。

この改正規程は、平成22年12月2日より施行する。